

追加型投信／国内／株式

信託期間：2019年1月15日 から 2028年10月10日 まで

基準日：2024年3月29日

決算日：毎年4月10日および10月10日（休業日の場合翌営業日）

回次コード：3389

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

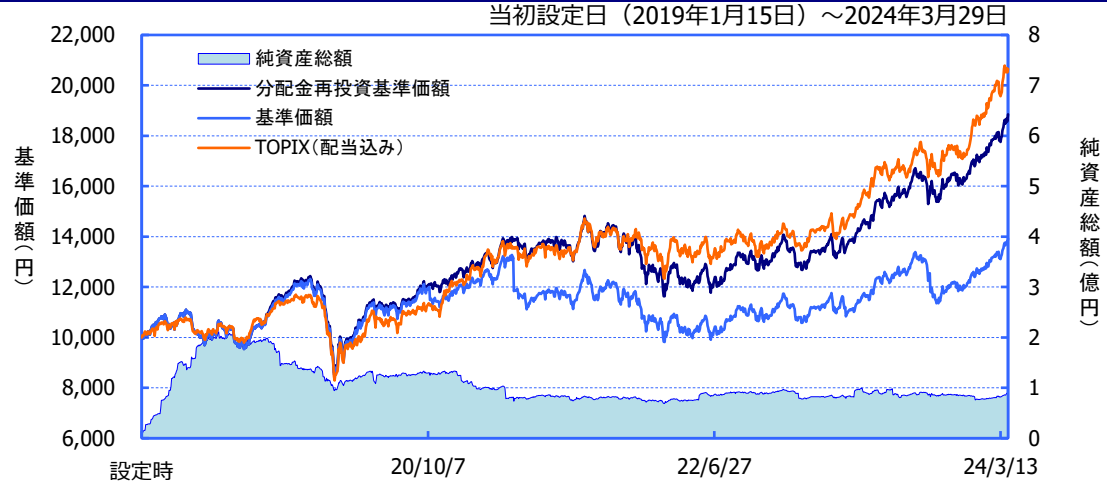
《基準価額・純資産の推移》

2024年3月29日現在

基準価額	13,918 円
純資産総額	90百万円

期間別騰落率

期間	ファンド	参考指数
1カ月間	+5.3 %	+4.4 %
3カ月間	+13.9 %	+18.1 %
6カ月間	+16.5 %	+20.5 %
1年間	+35.9 %	+41.3 %
3年間	+37.2 %	+52.5 %
5年間	+78.7 %	+96.2 %
年初来	+13.9 %	+18.1 %
設定来	+88.5 %	+106.5 %



※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。

※基準価額の計算において、運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述のファンドの費用をご覧ください)。

※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間とし、当該ファンドの「分配金再投資基準価額」を用いた騰落率を表しています。

※TOPIX(東証株価指数、配当込み)は当ファンドのベンチマークではありませんが、参考指数として掲載しています。

※グラフ上のTOPIX(配当込み)は、グラフの起点時の分配金再投資基準価額に基づき指数化しています。

※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

《分配の推移》

(1万口当たり、税引前)

決算期(年/月)	分配金
第1期 (19/10)	100円
第2期 (20/04)	0円
第3期 (20/10)	500円
第4期 (21/04)	1,300円
第5期 (21/10)	150円
第6期 (22/04)	40円
第7期 (22/10)	90円
第8期 (23/04)	450円
第9期 (23/10)	1,000円

分配金合計額 設定来：3,630円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

《主要な資産の状況》

※比率は、純資産総額に対するものです。

資産別構成			株式 業種別構成	
資産	銘柄数	比率	東証33業種名	比率
国内株式	76	96.9%	電気機器	10.9%
国内株式先物	---	---	機械	10.4%
不動産投資信託等	---	---	化学	8.1%
コール・ローン、その他	---	3.1%	サービス業	7.8%
合計	76	100.0%	小売業	7.0%
株式 市場・上場別構成			卸売業	6.1%
合計96.9%			食料品	5.2%
東証プライム市場		95.7%	ガラス・土石製品	4.1%
東証スタンダード市場		1.2%	非鉄金属	3.9%
東証グロース市場		---	その他	33.4%
地方市場・その他		---		
組入上位10銘柄			合計24.2%	
銘柄名			東証33業種名	比率
アシックス			その他製品	2.9%
デクセリアルズ			化学	2.8%
MARUWA			ガラス・土石製品	2.8%
大阪瓦斯			電気・ガス業	2.7%
UTグループ			サービス業	2.5%
ダイワボウHD			卸売業	2.4%
オルガノ			機械	2.4%
竹内製作所			機械	2.2%
物語コーポレーション			小売業	1.9%
マクニカホールディングス			卸売業	1.7%

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和アセットマネジメントにより作成されたものです。当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって投資元本が保証されているものではありません。当ファンドの取得をご希望の場合には投資信託説明書(交付目論見書)を販売会社よりお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上ご自身でご判断ください。後述の当資料のお取り扱いにおけるご注意をよくお読みください。

設定・運用:

大和アセットマネジメント

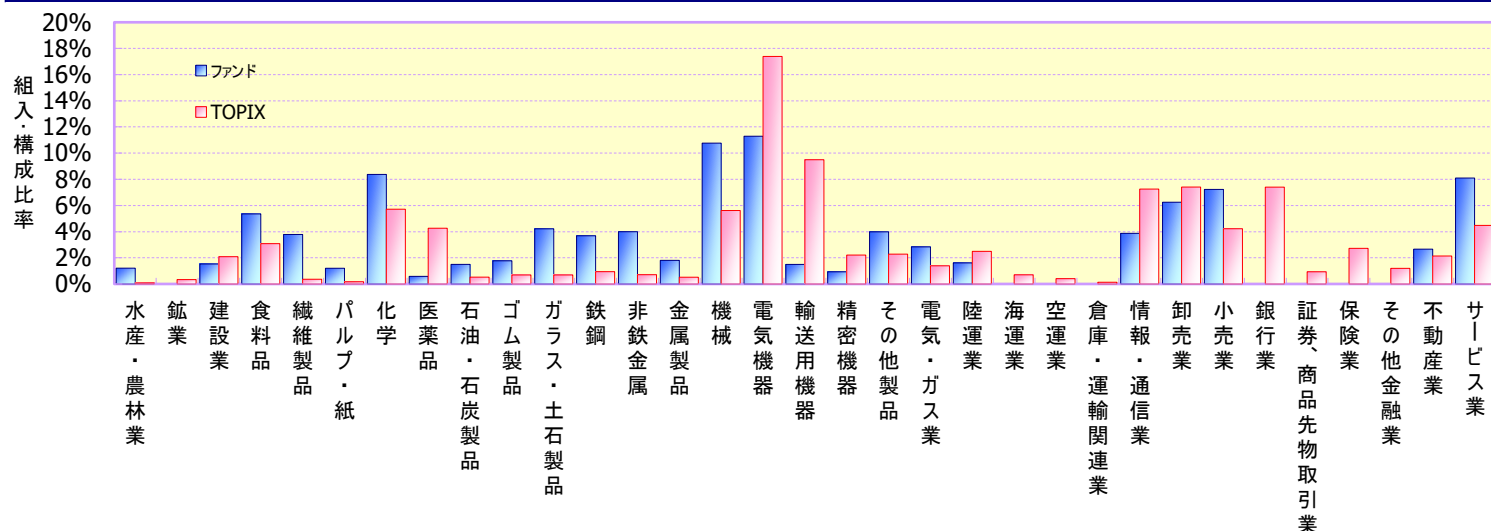
Daiwa Asset Management

商号等

大和アセットマネジメント株式会社

加入協会

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号
 一般社団法人投資信託協会
 一般社団法人日本投資顧問業協会
 一般社団法人第二種金融商品取引業協会



《ファンドマネージャーのコメント》

※現時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。

＜株式市況＞

3月の国内株式市場は上昇しました。上旬は米国の利下げ期待が高まり上昇しましたが、春闘の結果を受け、日銀が3月にもマイナス金利解除などを決定するとの見方が広まり、月半ばにかけて下落しました。実際、18・19日の日銀金融政策決定会合で金融政策の枠組みが見直されましたが、想定内であった上に、「当面、緩和的な金融環境が継続する」との見方から、株価は反発しました。その後は為替介入への警戒感などから下落しました。

＜運用経過＞

既存事業の構造改革や成長事業の動向、新年度以降の業績見通しに注目して銘柄を入れ替えました。また、自己株式の取得や配当増額など株主還元を通じて資本効率の改善が期待される銘柄に注目しました。

具体的には、半導体分野に事業領域を拡大し、新規顧客からの受注獲得など利益率の改善を伴った成長が期待される産業用製造装置関連銘柄や、公共分野での情報セキュリティ対策を背景に、業績の回復が期待される情報通信関連銘柄などを買付けました。一方、株式の売り出しを発表し、株主還元の強化への期待が後退した物流関連銘柄などを売却しました。

＜今後の運用方針＞

年初からの上昇が急ピッチであったことから、一服感が出やすい状況です。当局は足元の円安に対して介入も辞さない姿勢を見せており、急速な円高の進展には注意が必要です。しかし、金融政策面では「当面、緩和的な金融環境が継続する」ことが見込まれており、また資本コストを意識した経営に伴う株主還元強化への期待やNISAの投資枠拡大による個人投資家の資金流入期待は根強く、堅調な株価推移を予想します。

当ファンドでは、「しごと（地域活性化・魅力的な雇用機会創出に貢献する企業）」「ひと（地方へのひとの流れ・観光産業の成長で恩恵を受ける企業）」「こども（結婚・出産・子育て支援政策で恩恵を受ける企業）」「まち（持続可能なまちづくりで恩恵を受ける企業）」「せかい（世界で活躍する地方企業）」の5つのテーマに着目し、日本政府が推進する地方創生がビジネスチャンスとなる銘柄や、高い技術力や独自のビジネスモデルを発揮してグローバルで活躍している地方企業の銘柄に投資することで、パフォーマンスの向上を引き続きめざしてまいります。

<上位10銘柄のご紹介>

※個別企業の推奨を目的とするものではありません。

	銘柄名
	銘柄紹介
1	アシックス 本社は兵庫県。パフォーマンス向上を目指すアスリートのための製品を中心にグローバルでビジネスを展開。スポーツでつちかった技術、データを活用し、心と身体の健康の実現を目指している。特にパフォーマンスランニング分野では、スピードランナー層向けにラインナップ強化やマーケティング戦略の見直しが進んでおり、ライバル社からのシェア奪還が期待される。
2	デクセリアルズ 本社は栃木県。高度な技術力と顧客との対話力・提案力によって、ディスプレイに欠かせない光学材料などのニッチな市場で高いシェアを持つ高付加価値製品を生み出している。自動車の「電動化」や「自動運転化」のニーズの高まりを背景に持続的な成長が期待される。
3	MARUWA 本社は愛知県。セラミック技術をコアに、独自性の高い商品開発を強みとし、優れた放熱性を持つ高熱伝導基板の世界シェアはトップ。特に、電動車向けのパワー半導体では、放熱性に加えて強度を兼ね備えたセラミック基板が求められ、需要の拡大による持続的な成長が期待される。
4	大阪瓦斯 本社大阪府。都市ガスの供給をはじめ、LNGなど上流権益の確保、都市開発事業など事業領域を拡大しながら発展。24年度から始まる次期中期経営計画に向けて、財務健全性とのバランスをとりつつ、株主還元強化によるROE（株主資本利益率）とPBR（株価純資産倍率）の改善を目指す。
5	UTグループ 全国各地域に多様な「はたらく機会」を提供。半導体や自動車などの製造業に対し、製造オペレーターから製造エンジニアまで幅広く展開する人材サービス企業。九州などでの半導体工場の大型プロジェクトにより、半導体技術者の不足感是一段と強まっており、21年に熊本に開設した研修拠点を活用して即戦力を育成し、成長を目指す。
6	ダイワボウHD 本社は大阪府。繊維事業を起源に、生産機械の発展として機械事業、繊維と機械事業のシステム対応から発展してITインフラ流通事業を展開。収益性向上に向けた事業ポートフォリオ改革の加速とITインフラ流通事業の成長明確化による企業価値の向上が期待される。
7	オルガノ 創業は長野県。超純水・純水・水道水・産業排水・下水と幅広い水処理技術を有し、多種多様な顧客のニーズに対応できる水処理の総合エンジニアリング企業。九州などでの半導体工場の大型プロジェクトが、今後の成長を牽引すると期待される。
8	竹内製作所 本社長野県。ミニショベルを中心とする小型建設機械のメーカー。製品開発の全てを国内で、生産を日米で行う一方、連結売上高の90%超を海外向けで占めるグローバルな事業展開を行う。ミニショベルは、小回りが利くメリットを生かし、油圧ショベルからのシフトという構造要因による成長が期待される。
9	物語コーポレーション 愛知県に本社がある郊外ロードサイド型レストランを全国で展開する外食チェーン。テーブルオーダーバイキング形式の「焼肉きんぐ」を中心に積極出店を続けており、高い成長を実現している。焼肉だけでなく、和食、ラーメンなど業態開発力に定評があり、アジアにおける業態開発型カンパニーを目指している。
10	マクニカホールディングス 地方自治体向けのDX基盤サービスの提供や各地域での自動運転の実証実験など地域課題の解決に取り組む。国内最大手の半導体商社であり、車載、産業機器を中心に成長市場におけるシェア拡大が期待される。また、ネットワーク事業ではセキュリティ関連を中心に、既存領域でのシェア拡大や自社サービスの強化が期待される。

《ファンドの目的・特色》

ファンドの目的

- ・わが国の株式の中から、地方創生企業の株式に投資し、信託財産の成長をめざします。

ファンドの特色

- ・地方創生企業の株式に投資を行いません。
- ・毎年4月10日および10月10日（休業日の場合翌営業日）に決算を行ない、収益分配方針に基づいて収益の分配を行いません。

《投資リスク》

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、**投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。**

株価の変動 (価格変動リスク・信用リスク)	株価は、政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給等を反映して変動します。発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。組入銘柄の株価が下落した場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。 当ファンドは中小型株式に投資することがあります。中小型株式については、株式市場全体の動きと比較して株価が大きく変動するリスクがあり、当ファンドの基準価額に影響する可能性があります。
その他	解約資金を手当てするため組入証券を売却する際、市場規模や市場動向によっては市場実勢を押下げ、当初期待される価格で売却できないこともあります。この場合、基準価額が下落する要因となります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 当ファンドは、大量の解約が発生し短時間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受け付けが中止となる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。

《ファンドの費用》

投資者が直接的に負担する費用

	料 率 等	費 用 の 内 容
購入時手数料	販売会社が別に定める率 (上限) <u>2.2%(税抜2.0%)</u>	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信託財産留保額	ありません。	—

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

	料 率 等	費 用 の 内 容
運用管理費用 (信託報酬)	<u>年率1.573%</u> (<u>税抜1.43%</u>)	運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。運用管理費用は、毎日計上され日々の基準価額に反映されます。
配 分 (税抜) (注1)	委託会社	年率0.70%
	販売会社	年率0.70%
	受託会社	年率0.03%
その他の費用・ 手数料	(注2)	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

(注1)「運用管理費用の配分」には、別途消費税率を乗じた額がかかります。

(注2)「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせ下さい。

※運用管理費用の信託財産からの支払いは、毎計算期末または信託終了時に行なわれます。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

購入単位	最低単位を 1 円単位または 1 口単位として販売会社が定める単位
購入価額	購入申込受付日の基準価額（1 万口当たり）
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払い下さい。
換金単位	最低単位を 1 口単位として販売会社が定める単位
換金価額	換金申込受付日の基準価額（1 万口当たり）
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して 4 営業日目からお支払いします。
申込締切時間	午後 3 時まで（販売会社所定の事務手続きが完了したもの）
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行なうために大口の換金申込みには制限があります。
購入・換金申込受付 の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止その他やむを得ない事情が発生した場合には、購入、換金の申込みの受け付けを中止すること、すでに受け付けた購入、換金の申込みを取消すことがあります。
繰上償還	次のいずれかの場合には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了させること（繰上償還）ができます。 <ul style="list-style-type: none"> ・受益権の口数が 30 億口を下ることとなった場合 ・信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき ・やむを得ない事情が発生したとき
収益分配	年 2 回、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。 （注）当ファンドには、「分配金再投資コース」と「分配金支払いコース」があります。 なお、お取扱い可能なコースおよびコース名については異なる場合がありますので、販売会社にお問合わせ下さい。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。配当控除の適用があります。益金不算入制度の適用はありません。 公募株式投資信託は税法上、NISA（少額投資非課税制度）の適用対象であり、2024 年 1 月 1 日以降は一定の要件を満たした場合に NISA の適用対象となります。 ※税法が改正された場合等には変更される場合があります。

◀ 当資料のお取り扱いにおけるご注意 ▶

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和アセットマネジメントにより作成されたものです。
- 当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認くださいのうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみなさまの実質的な投資成果を示すものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。
- 分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

販売会社等についてのお問い合わせ

▶ **大和アセットマネジメント** フリーダイヤル 0120-106212（営業日の9:00～17:00）

当社ホームページ

▶ <https://www.daiwa-am.co.jp/>

地方創生日本株ファンド

販売会社名（業態別、50音順） （金融商品取引業者名）		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商 品取引業協会
株式会社十六銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第7号	○	○		
株式会社宮崎銀行	登録金融機関	九州財務局長(登金)第5号	○			

上記の販売会社は今後変更となる場合があります。また、販売会社によって、新規のご購入の取扱いを行っていない場合や、お申込み方法・条件等が異なります。くわしくは、販売会社にお問合わせ下さい。